

日本農業気象学会 2005 年度第 4 回理事会議事録

日 時：2006 年 6 月 5 日（水）13 時～17 時

場 所：東京大学農学部 7 号館 A 棟 717 号室

出席者：清野，早川，荊木，大原，大場，大政，奥島，蔵田，小林，後藤，菅谷，真木，
宮田，横山

欠席者：青木，井上，浦野，岡田，菅野，北宅，関，高見，武政，田中，長野，山田

[配布資料]

- 1) 農業気象学会第 4 回理事会（総務理事）
- 2) 2005 年収支ほか（総務理事）
- 3) 会員の現状について（会計理事）
- 4) 庶務関係作業日誌（庶務理事）
- 5) 決算・予算案（会計理事）
- 6) 2006 年度第 1 回「農業気象」「生物と気象」編集委員会議事録（案）（編集理事）
- 7) 日本学術会議報告・日本農業工学会報告（真木理事）

I. 前回議事録の確認

会誌掲載用の簡略版とホームページ掲載用の詳細版を承認。

II. 報告事項

2.1 総務関係

- 1) 日本学術会議ニュース・メールを理事会メンバーに転送（14 号：4 月 6 日，15 号・号外：4 月 25 日，16 号：5 月 8 日）
- 2) 本省行政部局へ春季大会シンポジウム要旨送付（4 月 10 日）
- 3) 学会ホームページの学会長挨拶更新（5 月 2 日）。
- 4) (財) 藤原科学財団「藤原セミナー課題募集」を理事会メンバーに配布（4 月 13 日）。
- 5) (独) 農研機構特定産業技術研究支援センター「民間における実用化段階研究開発の公募」を理事会メンバーに配布（4 月 13 日）。
- 6) 日本農学会シンポジウム「自然再生がめざすもの」（2006 年 5 月 13 日，東京大学）案内をホームページに掲載（4 月 19 日）。
- 7) 科学新聞社による「『知識社会とは何か?』-25 年後に実現させたい知識社会の姿-懸賞論文の募集」案内を理事会メンバーに配布（4 月 19 日）。
- 8) 日本学術振興会賞受賞候補者の推薦依頼を理事会メンバーに配布（4 月 25 日）。
- 9) 農林水産省の OECD「生物資源管理」国際共同研究プログラムの案内連絡（4 月 28 日）
- 10) 日本農業工学会総会に，真木理事と佐瀬会員が出席（5 月 12 日）。

2.2 庶務関係

- 1) 日本地球惑星科学連合第 3 回評議会（2006 年 5 月 18 日）で日本農業気象学会加盟承認。評議会に会長代理として鳥谷委員が出席。
- 2) 日本流体力学会（2006 年 9 月 15 日～17 日，九州大学）を協賛。
- 3) 日本学術会議より科学者倫理への取り組みについて調査依頼（2006 年 5 月 22 日）。事務局で対応。

4) 文部科学省科学技術政策研究所「科学技術の状況に係る総合的意識調査（定点調査）分野別調査」協力依頼（2006年6月1日）。事務局で対応。
その他の庶務関係の事務処理事項は、配付資料4に記載した。

2.3 会計関係

総務理事より2000年度以降6年間の単年度収支について報告。会員数は減少傾向にあるが、支出は横ばい。2005年度赤字は基本金の取り崩しで対処。2006年度は支出削減に努め、2007年度には会費の値上げ、会誌発行、会計業務委託費等の大幅な削減が必要。

2.4 編集関係

- 1) 編集委員長より、2006年度第1回編集委員会（2006年6月1日）について報告。著者、査読者ともに原著論文と短報の区別ができていない例が見られるので、区別を明確にし、短報の趣旨に沿った審査を実行。論文賞1件、奨励賞2件を、学会賞審査委員会に推薦。
- 2) 論文賞等対象を会誌の発行時期で指定すると不定期の巻号について曖昧な点が生じるので、対象とする巻号を明示して錯誤を回避。
- 3) 編集理事より、編集経費削減策について報告。農業気象のe-journal化に伴って、和文誌化する「生物と気象」の発行費の増加が見込まれるので、発行費全体の大幅な削減は期待できない。しかし、「生物と気象」への掲載項目の見直しとお知らせ等のホームページへの移行により、70万円（2006年度）から104万円（2008年度）の削減が可能である。なお、掲載項目の見直し時には、会員に十分周知するとともに、重要事項についてはメーリングリストを活用して、購読者に配信する必要がある。

2.5 日本学術会議・日本農業工学会総会関係

- 1) 日本学術会議農学合同委員会・九州大学大学院農学研究院シンポジウム「災害社会環境の中での安心・安全と癒し」（2006年7月12日、九州大学）を開催。
- 2) 日本農業工学会107回理事会、第22回総会を2006年5月12日に開催し、新組織委員による体制発足。内嶋善兵衛、内島立郎、小元敬男、吉野正敏の各会員がフェロー表彰。

2.6 農業環境工学関連7学会2006年大会

- 1) 大会期間中の会議の開催予定日時を決定。
2005年度評議員会：9月12日18～20時
2006年度総会：9月13日13～15時
2006年度第1回理事会：9月14日12～13時
若手の会：9月12日18～20時
- 2) 講演要旨集は発行せず、発表申し込み時に提出された発表要旨を掲載したプログラムを配布。大会プログラムは学会誌に非掲載。

2.7 各種委員会

①普及・教育活動委員会

- 1) 日本農業気象学会セミナー「屋上緑化、都市緑化におけるセンサ・計測」（2006年4月7日、東京ビッグサイト）を開催。講演5件、参加者は21名、会員4名加入。
- 2) 松岡浩延会員、横山仁会員を、普及・教育活動委員会委員に任命。

②永年功労会員表彰審査委員会

2006年4月6日に、総務理事から推薦書が提出された。支部からの推薦者を含めて審査を行い、2名を被表彰候補者として学会長に推薦（2006年5月26日）。今後、理事および評議員による投票で決定。

2.8 支部関係

- 1) 北陸支部：5月末に支部会誌発行。
- 2) 中四国支部：12月14～16日のうちの2日間、山口で支部大会を開催。問題別研究会と共催。
- 3) 九州支部：11月30日～12月1日に、沖縄県農業試験場で支部大会を開催。

2.9 その他

- 1) 2006年春季大会で、講演企画委員会が実施した参加者アンケート調査結果を報告（参加者数135名、回収率14%）。口頭発表時間、会場数などについては肯定的な意見が多数。プログラムは検討の余地があり、開催時期、開催地に関しては意見不一致。
- 2) 2007年春季大会は、石垣市で2007年3月28日～30日に開催。
- 3) 春季大会のシンポジウム課題に本部の意向を反映させるため、2008年春季大会の開催地は、2006年12月の理事会までに決定の必要。
- 4) 2007年合同大会の実行委員会を5月26日に開催。
- 5) 2008年度合同大会は、農業環境工学系学会連盟会議（6月6日）で検討予定。
- 6) 関理事（2005年合同大会担当）の退任を確認。

Ⅲ. 審議事項

3.1 2006年度予算案

- 1) 会計理事から提案された予算案を審議し、支出を削減し、事業準備金の取り崩しを中止に修正後、承認。支出の削減策を下記の2)～5)に提示。
- 2) 編集理事の提案に従って、「生物と気象」の本部関係記事は掲載を限定し、多くはホームページに移行。会員名簿は、選挙で必要な氏名と所属に限定。
- 3) 理事会開催費は支出しない。
- 4) 支部補助費は、選挙実施のために必要なので支給。選挙事務に関わる返信用切手代を受取人払いとして経費節減。
- 5) 部会補助費は、若手研究者の会を除いて支出しない（各部会の了承済み）。

3.2 2007年度予算の措置方向

会計理事より、会費の値上げ幅が異なる3つの予算案を提案。収入については正会員の会費を2,500円値上げする案、支出については大きく削減する案を中心に審議。会員動向を考慮に入れ、今後5年間の収支予測を提示し、再審議することに決定。

3.3 「生物と気象」の充実強化

2008年に予定される「農業気象」のe-journal化に伴い、冊子体での発行形態を要求する購読会員、賛助会員のために、「生物と気象」を充実強化。具体案は、「生物と気象」担当の島地編集委員が作成。

3.4 OB 会員制度の創設

定年退職後、定職を持たない会員を対象として、会費額が学生会員並で、正会員と同じ権利を有する OB 会員制度の創設を総務理事が提案。会費額は再度検討するが、制度の創設は承認。審議中に、定年退職前に 10 年分の会費前納による正会員としての権利を終身保有する終身会員制度の創設が提案され、了承。会則の修正案を作成して、再提案。

3.5 部会の新設

佐瀬会員から申請のあった園芸工学研究部会の設立を承認。

3.6 学会賞等の副賞

学会賞審査委員会および永年功労会員表彰審査委員会に検討を依頼していたが、具体案は出なかった。今年度分は庶務理事が準備し、次年度以降については継続審議。

3.7 会員増対策

各理事より、普及・教育活動委員会の企画の強化、企業参加型の研究会等の開催、メーリングリストの早期整備による情報提供、海外特別会員の意向調査などによる国外在住者の勧誘等の提案があり、次回以降の理事会で検討。

IV. 次回理事会

7月28日(金)13時から、東京大学農学部で開催する。事務局打ち合わせは行わない。2006年9月の合同大会時の評議員会と総会用の議案は、次回理事会の審議内容を踏まえて、事務局が原案を作成し、理事に配布して承認を得る。